

## ソーシャルメディア登場後の情報倫理 ソーシャル時代における新たな情報倫理課題

[2012・FW] 20921077 千葉知

### 1. 研究の背景と意義

昨今の情報技術の発展によりパーソナル・コンピュータや携帯電話（スマートフォン等）を用いたインターネットの利活用は増大している。また、個人が情報を受信し活用するだけでなく、自らが発信する立場となる機会・ツールが増大している。その一端を担っているといえるのがオンラインコミュニケーションとオンラインコミュニティが融合したシステム SNS（Social Networking Service）である。日本国内の SNS 利用者はインターネット利用者の約 45%にあたる 4,289 万人となっている。

インターネット上でのコミュニケーションの主体となっている SNS であるが、巨大掲示板やブログを始め、Mixi、Facebook、twitter など度々反倫理的な言動が見受けられる。その行動の背景には SNS 等による個人の情報発信力が増大したことに対して、従来の情報倫理では対応しきれないのではないかという仮説に基づいて、本研究に至った。

本研究は情報倫理がソーシャルメディアの登場によって生まれる新たな課題に対しどのように有効か否かを考察し、新たな情報倫理を打ち立てるにおいてどのような要素が重要であるか等を解明する。

### 2. 研究目的・方法

本論文で記す情報倫理の対象は主として個人である。近年の情報通信技術の急速な発展に並行して諸問題が発生している。情報を発信する機会や手段が増えたために個人の情報発信力が増大していることが原因にあると考えられる。その点において現在の情報倫理は正しく機能しているのか、新たな情報倫理が必要となるのかを考察するのが目的である。

インターネットによる情報発信は容易になっているため、個人の裁量・責任による情報発信がより求められている。その時に重要なのが情報倫理であり、各個人が情報発信力を強く持つ現代に対応した情報倫理が求められている。特に SNS の登場前後では個人が持つ情報発信力、伝達範囲に大きな違いが認められるため、その点に重点を置き本研究を行う。また、今後も情報技術の発達とともにさらに情報倫理に求められる問題、課題は出てくるだろうと予測される。それに対応しうる情報倫理について模索することは新たな問題への対策へと役立つことを期待する。

研究方法は文献調査による理論整理、現状分析であり、それに基づき論文を構成する。

### 3. 研究結果・考察

インターネット上での発信は別段の準備がいらず、今まで篩い落とされたような情報までもが表へ出てきた。インターネット上での反倫理的発言・表現の増大の原因には情報発信コストが低いことや、1 対多数の構図、ネガティブな意見の突出などがある。SNS の機能などが影響する点が大きく個人における情報発信力が増大したことが要因である。そのため従来の情報倫理では対応できない点が見受けられた。

今後の情報倫理問題については、ソーシャルメディア人口の増加による相対的な問題発生率の増加、法規制による情報倫理問題の拡大が挙げられる。特に後者の法規制における問題は、「DVD リッピング違法化」の事例を見るに、現在問題とされていない（法規制されていない）事項が今後規制、制限を設けられる可能性は大いにある。インターネットの影響力の高さが現れている事象である。インターネット上の規制が重く設けられる場合は、表現の自由などの基本原則に関係する情報倫理問題が発生することは避けられない。

### 4. 結論

情報倫理について主張すべき点は 2 点ある。1 つ目は個人レベルにおける情報倫理の再定義である。2 つ目は一人ひとりへの情報倫理の重要性の認識である。それらを行う理由はソーシャルメディアの登場によって個人の情報発信力の増加を起点とする問題が多いためである。情報倫理における定義を「個人における情報倫理とは、情報社会、ネットワーク上において各々が自立し自己責任によって発信を行い、判断基準を持ち情報の価値を理解することによって、共有水準の向上を目指すもの」としたい。また、重要性の認識においては特に学生に対し「ネットワーク利用資格試験」の実施である。情報倫理は高度に発達した情報技術とともに変化していくものである。常に適応し続けなければならない。社会の在り方を変容させる重要な発達は、同時に今まで考え付かなかったような問題を生み出すきっかけとなりえる。その問題を解決していくために情報倫理は存在し、各々が身につけ意識しなければならない。